

「那珂川町」

那珂川の豊かな自然と名産「温泉トラフグ」で知られる町

「温泉トラフグ」
 海のない栃木県で、海水魚であるトラフグの養殖。そんな奇抜なアイデアを実現する力となったのが、那珂川町の温泉でした。河口付近の汽水域の海水に近い塩分濃度を持ち、排熱によりフグの活性を年間を通じて維持することができるため成長が速く、効率的な養殖ができます。廃校となった小学校を利用したプラントからスタートした陸上養殖ですが、そこで養殖されたトラフグは現在、町内の飲食店で新しい名物として提供されています。



県内探訪

名所を歩いて
西 東



豊かな自然や歴史的遺産を通じて、県内各市町の姿をご紹介しているこのページ。今回は、県東北部に位置する町、那珂川町をご紹介します。

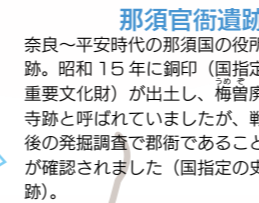
那珂川町を歩く

「那珂川を渡り町内名所を見て歩く」



まほろばの湯 湯親館
 浴用飲用とも、動脈硬化症、糖尿病、痛風などの泉質には見られない効能があるといわれています。大浴場の内風呂と露天風呂は、那珂川の源流から大河までの景観の変化をイメージした浴槽となっており、食事処や休憩所も併設。

馬頭広重美術館
 歌川広重の肉筆画や小林清親の明治版画等の収集で知られた「青木コレクション」を公開・展示する美術館。重要文化財クラスといわれる作品のほか、隈研吾氏設計による建物も、一見の価値があります。



那須官衙遺跡
 奈良～平安時代の那須国の役所跡。昭和15年に銅印（国指定重要文化財）が出土し、梅曾廃寺跡と呼ばれていましたが、戦後の発掘調査で都衛であることが確認されました（国指定の史跡）。



馬頭院
 建保5（1217）年の創建で、元禄時代に徳川光圀公により今の寺名・本尊に改められた古刹。県の天然記念物に指定された、光圀公お手植えの枝垂栗（三度栗）も有名です。



ふるさとの森公園
 那須官衙遺跡を眼下に望む高台に整備された公園で、園内には民俗資料館、地元の八溝杉で建てられたモデル木造施設のふるさと館をはじめ、なす風土記の丘資料館や民家を移築・復元した匠の館などさまざまな施設があります。



唐御所横穴
 那珂川東岸の丘陵に掘られた、古墳時代末期の横穴墓。7世紀ごろのものといわれ、国の史跡に指定されています。

●那珂川町 お訪ねしました

八溝山の山地から高倉山・鷺子山などの丘陵地帯、そして那珂川沿いの平坦地まで、バラエティ豊かな地勢が特色の那珂川町。地域を支える産業は、林業・農業のほか、古くは水戸藩主・徳川齊昭公に始まる小砂焼などがありました。最近では特色ある史跡・自然を活かした観光業のほか、八溝ししまる・温泉トラフグなど那珂川町ならではの地域資源を活かした地域ブランドの開発が進み、「環境のまちづくり」による活性化が図られています。

- ・面積：192.84 平方 km
- ・人口：1 万 8,385 人（6,124 世帯）

那珂川町の見どころ

❖鷺子山上神社
 茨城県との県境、標高470mの山頂に位置し、大鳥居の中央が県境という全国でもめずらしい神社。大同2年（807）の創建で、彫刻・彩色が見事な本殿（江戸時代に再建）や、「千年杉」の巨木が有名です。



❖那須神田城跡
 那須氏の祖・藤原資家が平安時代末期に築いた居城の遺構。土塁や空堀などが残り、国の史跡に指定されました。現在は城趾公園として整備されています。



❖駒形大塚古墳
 「前方後円墳」の出現前に造られていた「前方後方墳」で、東日本最古といわれる古墳。戦後の発掘で文帯四獣鏡等が見え、周囲の古墳群とともに国の史跡に指定されています。

❖いわむらかずお絵本の丘美術館
 作品が世界13カ国で翻訳・出版されている絵本作家いわむらかずお氏の絵本美術館。周辺には絵本の舞台である里山の自然が保存され、絵本と同時に楽しめます。



❖町営ゆりがねの湯
 那珂川の清流を眼下にし、遠くは高原山、日光連山などを一望できる景勝地に位置するのが馬頭温泉郷。肌が滑らかになることから「美人の湯」とも呼ばれます。那珂川沿い、温泉旅館の並びの一番上流にあるのが町営の温泉浴場 ゆりがねの湯。

❖もうひとつの美術館
 明治・大正の面影を残す旧小口小学校の校舎を再利用して開設された美術館。ハンディキャップを持つ人の芸術活動をサポートしつつ、アートを核に地域や人をつなぐ活動をしています。



❖そば処ふれあいの舎
 自家製粉の地粉にこだわった、挽きたて打ち立てのそばを味わえる小さなそば処。地元野菜のかき揚げと香り高いそばをお楽しみいただけます。

❖カタクリ山公園
 八溝県立自然公園内のカタクリ山公園では、関東最大規模を誇る100万株のカタクリの群生が斜面を埋め尽くします（花の見ごろは平年で3月下旬～4月中旬）。



❖岩ウチワの群生
 カタクリと並んで那珂川町を代表する花が、岩ウチワ。町内富山地区の山中に野生で群生しており、3月下旬～4月中旬ごろ、可憐な淡いピンク色の花を咲かせます。

岩ウチワの花



那珂川の流れ

県の東北部に位置する那珂川町は、2005年10月1日に那須郡小川町・馬頭町が合併して誕生した、新しい町です。ともに古い歴史を誇る旧・両町でしたが、境界を流れる関東屈指の清流・那珂川が新たな町名の由来となりました。

古くから人の営みの場となっていた那珂川町ですが、現在も町域の約6割を山林が占め、美しい自然が保全されています。最近では、これらを資源に新たな地域ブランドの創出が進んでおり、「八溝ししまる（八溝山系地域でとれた野生のイノシシの肉）」や「温泉トラフグ（海水に近い塩分濃度の温泉を活かして行うトラフグの養殖）」など、那珂川町ならではの産品も生まれています。

またこの10月には、町内小砂地区が「日本で最も美しい村」連合（日本の美しい景観・文化などを守る活動をしているNPO法人）へ、県内の自治体・地域では初めて加盟承認されました（全国で50番目、関東地方では群馬県内の3カ所に続く4番目）。今後はこれらの自然・文化を守りつつ、町として活性化が期待されています。



コースガイド



なす風土記の丘資料館
 大規模な古墳群や奈良時代の官衙跡が残る「なす風土記の丘」一帯は、歴史の宝庫。それら文化遺産等を守るために県が設けた資料館です。古代なすの国を体験・イメージできる展示が人気です。



道の駅ばとう
 「遊びにおいでよ！ 田舎が一番」をキャッチフレーズに、「田舎の駅」をイメージして造られた施設。地元産物の新鮮野菜や手作りハム、手作りアイス販売するほか、レストランも併設されています。